



◇特集 図書館のビジネス支援サービスとは
◇Topics おとなのための語りを楽しむ会 ほか

■ 特集 ■ シリーズ 多様なニーズに応える図書館 2

図書館のビジネス支援サービスとは

「多様なニーズに応える図書館」をテーマにした本年度の特集第2弾はビジネス支援サービスをとあげます。「図書館」と「ビジネス」のイメージが結びつかない人も多いと思いますが、アメリカでは100年余り前から始まりました。日本では最近になって、神奈川県立川崎図書館や浦安市立中央図書館等いくつかの公共図書館でビジネス支援のサービスが行われています。ビジネス支援とはどのようなサービスなのか知るために、一昨年からこれを開始した大阪府立中之島図書館を訪ねてきました。また関連の図書を読み、考えたことを紹介します。

大阪府立中之島図書館を訪ねて

大阪府立中之島図書館は大阪の都心中之島で長く府民に親しまれた図書館です。平成16年4月からは、ビジネス支援サービスが始まり、従来の大阪資料・古典籍との二本柱での運営がなされています。

今回はけやきメンバーが中之島図書館を訪ねて見学をし、ビジネス支援課前田香代子課長にサービスの内容を伺いました。

(10月2日 けやき・永井、増井、奥坂、北園、明石、島崎)

◆ビジネス支援サービスが始まるまで

中之島図書館の開館は明治37年(1904)です。そもそも、明治33年に商都大阪の発展のため第15代住友吉左衛門氏が図書館建物一式と図書購入基金の寄附を申し出、これをもとに建設されたもので、氏の寄附には「この図書館を大阪で働く若者たちが自学自習して知識が身に付くような実学資料を集め、大阪の商業・経済の発展に寄与してもらいたいとの願い」¹が込められていたとのことでした。

その後長く大阪府の中央図書館として機能していま

したが、平成8年東大阪市に新中央図書館が新築開館された後は、大阪資料・古典籍関係中心の図書館として大きく機能が再編されました。さらに、平成16年4月にビジネス支援サービスが加わります。

というのも、立地条件からビジネス関係資料を求める人が多いこと、図書館を取り巻く社会潮流の変化として、起業、企業の経営革新のためのビジネス情報やキャリアアップのための学習機会を求めるニーズが高まっている現状があり、そのようなニーズに応えることを目的に始められたのです。

1 大阪府政策室「中之島図書館のビジネス支援機能あり方検討調査報告書」2003年

◆どんなサービス？

では中之島図書館のビジネス支援とはどのようなサービスなのでしょう。中之島図書館では実務に役立つ資料の収集提供、レファレンス（調査相談）、ビジネスセミナーの開催、インターンシップへの協力などの事業が展開されています。まず館内を歩いてみましょう。

重厚な外観の正面入口から2階へ。**ビジネス資料室**には名簿、統計、年鑑、人文自然科学、法律・経済・経営・産業などの資料が開架で。大阪府内の住宅地図は利用が多いそうです。雑誌は開架で600、閉架を合わせて1500タイトルを収集。社史・団体史のコーナーがあるのも特徴で、元々力を入れて集めていたとのこと。社史からはその業界の発展の経緯を知ることができるそうです。海外資料としては東アジアの経済事情の本を中心にし、アジア開発銀行の寄託資料も置かれています。レファレンスカウンターでは電話や対面の対応で忙しそうで、図書館全体から活気が感じられます。

新聞室には全国紙が当日版からマイクロフィルムまであります。また業界紙は約100タイトル揃っています。ビジネスには情報の鮮度が大事なので、新聞や雑誌は大切な情報源とのことでした。大阪証券取引所・東京証券取引所の有価証券報告書のマイクロフィルムの閲覧も。またビジネスに関する関係機関のパンフレットも多数置かれています。

3階の**デジタル情報室**。ここではインターネットが利用でき、またCD-ROM、データベースなどのデジタル情報が検索できます。データベースでは「日経テレコン21」や判例法令を調べる「レクシス・ネクシスJP日本法総合データベース」の利用が多いとか。

隣の**自習室**は104席。ここを訪ねたのは月曜の午後でしたが、会社員や学生といった感じの利用者でほぼ満席で、一心に調べものに取り組む人が多く見られました。

3階には大阪資料・古典籍室もあります。ここには大阪に関する全分野の資料が集められているので、ビジネスに利用できるものも見受けられました。また、ぎっしりと資料の詰まった書庫も見せてもらいました。中之島図書館の図書蔵書総数は53万冊、マイクロフィルムとCD-ROMが1万3千点あります。

◆調べものの心強い味方

このように多様なビジネス資料が集められた図書館があると、ほしい資料・情報をもとめて大型書店や地域の図書館を訪ね歩かずとも済みます。また印刷された情報と電子情報を整理して提供できる図書館の機能を使って、必要な情報に早くたどりつくことができます。

そのためにも**レファレンス**は重要で、相談カウンターには「ショッピングセンターの面積と売上高を知りたい」「マレーシアの輸入規制は？」というような

大阪府立中之島図書館

大阪市北区中之島1丁目2番10号

Tel 06-6203-0474（代表）、06-6203-0473（大阪関係資料について）、06-6203-4150（ビジネス関係資料について）

●交通 京阪淀屋橋・地下鉄御堂筋線淀屋橋駅（1号出口）北東へ約300m。大阪市役所東隣。

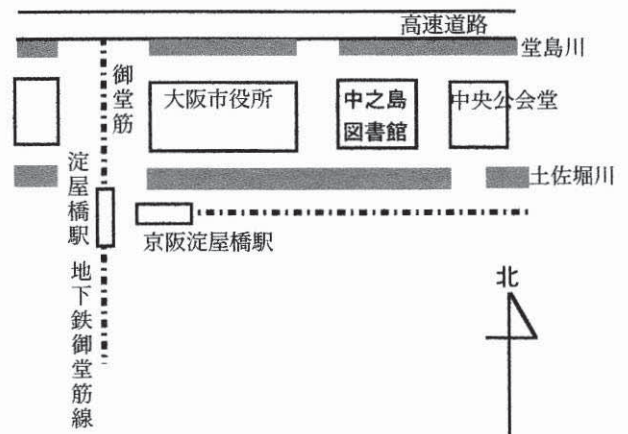
●開館時間 9時～20時（月～金曜）、9時～17時（土曜）

●休館日 日曜、第2木曜（祝日の場合はその前日）、国民の祝日、年末年始、図書特別整理期間

●ホームページ <http://www.library.pref.osaka.jp>

●メールマガジン 月2回発行

●貸出 1人8冊まで、3週間。利用者カードは住所名前を確認できる証明書を添えて申し込む。



分野や地域を絞った具体的な相談が多くなっているとのこと。これについては司書さんが、さまざまな資料を当り、探し方を示し、蔵書がなければ、関係機関を案内したりされているそうです。

また資料の調べ方を示した「**図書館調査ガイド**」というパンフレットが作成されています。これは「企業情報を調べるには」「法令の調べ方」「統計情報を調べるには」「文献を探す」など基本的な調べ方が丁寧に記された便利なもの。現在24種類あり、今後も修正追加されていくそうです。館内で配布、また中之島図書館のホームページでも公開されています。

ホームページでは蔵書検索や催し物案内はもちろん、「**ビジネスWeb情報源**」として物価・地価、消費動向、特許、規格などについての情報源のアドレスをまとめた項目もあり、調べ方についても、様々な情報が提供されています。

◆図書館ならではの敷居の低さ

中之島図書館ではや**起業支援セミナー**や**講演会**も開催されています。今年開催された「ネットショップをはじめませんか」「創業に知って得する法律」には各回50名の定員を超える応募があって、盛況だったとか。セミナーの内容はホームページで紹介されています。

またビジネス専門家がいる大阪商工会議所、国民生活金融公庫など**類縁機関とも連携**を深めるために訪問をしているそうで、これら類縁機関のパンフレットも多数図書館に置かれています。

漠然と「お店を始めたいなあ」と思った時、帳簿はどうするのか、リスクはどうなのか、等々知りたいことはたくさんありますが、いきなり専門機関に相談に行くのは気が引けるもの。

「その点図書館は敷居が低く、ここがビジネスへの入口となることができます。それが図書館の強みです」と前田課長が話されるように、思い立って訪ねれば、さまざまな資料に触れ、相談ができ、専門機関の情報を得、セミナーから多くの示唆を得られる。まさに図書館が起業や仕事の新たな展開を支えてくれるのですね。



中之島図書館外観

「大阪府立中之島図書館利用のごあんない」パンフレットより転載

◆平日夜間も開館、京都からは1時間

このように自分で働く場所を自分で作り出す、そんなライフスタイルにも寄与する中之島図書館のビジネス支援サービス。開始から1年半ほどですが、利用者層の変化が感じられ、だんだんビジネス関係の専門的なものが利用されるようになり、レファレンスの対応時間も長くなって来ているそうです。建物が重要文化財である都合上、スペースの制約はありますが、建物の文化財としての価値を大切にしながら、運営しておられる様子がうかがえました。

中之島図書館へは出町柳から京阪特急（淀屋橋下車）と徒歩で1時間ほど。交通至便な場所なので実際に行ってみると左京図書館周辺からでも思ったより近く感じます。近畿圏在住なら利用者カードが発行してもらえるので、本を借りることもできます。

高いドーム天井に商都大阪の先人の思いを感じながら、新しい一歩を踏み出す。あるいは目の前の課題解決の糸口をつかめるかもしれません。ぜひ一度訪ねてみてください。

（島崎）

「図書館のビジネス支援」を本で読む

■ 未来をつくる図書館 ニューヨークからの報告 菅谷明子著 岩波新書 2003年 ■

この本のカバーにはこのような言葉がある。

「図書館がなかったら今の自分はなかった。」
起業や芸術の支援、医療情報などが充実したニューヨーク公共図書館。地域密着の運営、独自のイベントやITを活用した情報提供は、どのようにして可能なのか。個人の力を伸ばし、コミュニティを活性化させる活動とその意義を伝え「市民が主役の情報社会」の方向を探る、示唆に富む報告書。

公共図書館は、単に本を借りるためだけの場所ではない。過去の人類の偉業を引き継ぎ、新しいものを生み出す資料を提供する場所であるという。ニューヨーク公共図書館は、図書館を充実することで①組織の後ろ盾を持たない市民の調査能力を高める②新規事業の誕生を促し、経済活動を活性化させる③文化・芸術関係の新しい才能を育てる④多様な視点から物事を捉え、新たな価値を生み出す⑤コンピューターを使いこなす能力をはじめ市民の情報活用能力を強化することができ、やがて社会を活性化すると考える。具体的な取り組みを「第1章 新しいビジネスを芽吹かせる」「第2章 芸術を支え、育てる」「第3章 市民と地域の活力源」として報告している。

今回のテーマ『ビジネス支援』に合わせ「第1章

新しいビジネスを芽吹かせる」について見ていきたい。アメリカに、最初のビジネス図書館ができたのは1904年。公共図書館が利潤の追求を目的とする「ビジネス」に荷担するのはどうかという見方もあったが、個人の経済自立を促し地域経済の活性化にも役立つと捉えられるようになり広がり始めた。最先端のビジネス図書館として、ニューヨーク公共図書館本館の近くに科学産業ビジネス図書館（SIBL=シブル1996開館）がある。そこではビジネス成功の鍵の一つ、最新情報を多角的に収集、分析するための電子情報が充実されている。また、利用者が求める情報をいかに効率よく探し出す支援をするかというレファレンスにも力を入れている。ビジネスプランや資金調達、マーケティングなど専門家によるビジネス講座が開かれ、参加者によるネットワークもできる。ほかに、職業情報センターを置いている図書館もある。豊富な資料と専門司書がいて、やる気さえあれば、ここを拠点にかなりのことができる。

ゼロックスのコピー機、パン・アメリカン航空の創始も図書館から生まれた。

「起業」という言葉に無関係だと思っていたわたしも、図書館で「自分のしたいこと」を見つけるところから始めてみようかと思わせる、一冊だった。（田中）

■ 税金を使う図書館から税金を作る図書館へ 松本功著 ひつじ書房 2002年 ■

言語学関係の学術書を出している小出版社の主が『図書館の学校』（NPO法人図書館の学校の機関誌）に26回に亘って連載したものがまとめられているのがこの本である。様々な角度から1テーマ3ページを使って図書館についての筆者の考えが述べられているので、自分にとって関心のあるテーマを読むのもよし、通読するのもよし。本書の底流にあるのは、人の生き方と図書館との関わりを積極的に捉えるという意識だ。

例えば「ビジネス支援」に対する筆者の考えはこう

だ。

人が生きるには「消費」と「生産」とが車の両輪のように廻っていることが大切だ。双方バランスよく廻ってこそ生活も活発化する。それを読書という行為に置き換えてみると、「読む」（情報を得る）ことと、「読んだ」事柄（得た情報）から何かを「産み出す」こと双方が大切だということになる。図書館の役割という観点からは、税金を使って購入した本から情報を受ける機会を提供するだけでなく、税金を産み出す活動（ビジネス）を支援する役割を図書館が担うこ

とが必要だと筆者は述べている。

図書館には様々なジャンルの本がある。その中でビジネスを支援する本はどれだけあるだろう。文学作品などを読んで精神的充足を感じたい時や知的欲求を満たしたい時などと同じように、何らかの仕事に関わりたと思った時（自分で起業する場合も含めて）、それに関する情報を図書館でも得られたら活動しやすくなる人も多数いるはずだ。

また、高校卒業後の進路を考える時（進学、就職に関わらず）、成績、興味、表面的な適性を中心に判断するだけでなく、どんな職業があり、それらの職業が生き方とどの様に結びつくかなどの具体的な情報も得られたら、個人個人が適切に人生を決めていけると思う。今、高校卒業後あまり間を置かないうちに針路変

更をする若者が多いと言われる。その原因を現代の若者の辛抱、努力の欠如とする声も聞かれる。しかし考えてみると、ひと昔前に比べて仕事の多様性、職種の多さは比べものにならない程だ。明暗双方の具体的な情報も得られないまま進路決定をした場合、後になって自分の行く末に疑問を抱いてもおかしくないと思う。

各高校に職業選択に関する情報を揃えるのは難しい。図書館にその情報が数多くあり、それを利用できたら、生徒が、自らが描く人生計画と照らし合わせてより適切な進路決定をできると思う。そればかりではなく、他の職業の現実を熟知しているとは言えない教師も、こうした図書館を利用することにより、生徒の良き相談相手になれるのではないだろうか。（増井）

浦安図書館にできること 図書館アイデンティティ 常世田良著 勁草書房 2003年

千葉県浦安市立図書館は規模の大きさ、利用率の高さ、マネジメントの質と量、サービスの先端性などにおいて日本を代表する公共図書館です。

その浦安図書館に生え抜きの館長として在任した（1996年4月～2004年3月）著者が、2003年の開館20周年を機に、20年分の報告書としてまとめたのがこの一冊です。今回のテーマである『ビジネス支援』については、第6章「公共図書館におけるビジネス支援サービスの現状」に述べられています。

浦安図書館は現在ビジネス支援サービスに力を入れています。ビジネス支援サービスとは「仕事に役立つ情報を提供する」ことです。従来そのようなサービスがなかったわけではありませんが、その意義は十分意識されることなく、評価されることは殆どありませんでした。

アメリカでは「ビジネス&キャリア」というコーナーを設置している図書館は珍しくなく、ビジネスに特化した図書館も存在します。わが国においても「自己診断・自己責任」型社会への移行にともない、ビジネス支援サービスのニーズが高まり、2000年にはビジネス支援図書館推進協議会が発足、浦安図書館も設立に参加しました。

浦安図書館では90年代より「大人の図書館」のコンセプトのもとに、ビジネス支援サービスを開始しています。ビジネス関連の図書や新聞、各種統計、年鑑、政府刊行物の収集、レファレンスをはじめとするサービスの見直し、窓口の改善、組織の変革を行った結果、成人の利用が大幅に増加しました。

2001年からは協議会との共催により、セミナー、個人相談会を定期的実施しています。セミナーのテーマはWeb活用や特許、図書館活用、マーケティング調査、倒産、起業体験など多様です。その中から、創業をめざす市民グループが発足し、図書館と連携して活動するに至っています。

日常的に、気兼ねなく、誰でも利用できる図書館で、多様なビジネス情報と関連情報が得られるのは大きな魅力です。また、情報がビジネスに特化しておらず、図書館の一見無秩序で多様な資料が自由な発想を触発することもあると著者は述べています。

「ビジネス支援は生き方支援でもある」ということばに、ビジネス支援への著者の熱意が感じられます。

（奥坂）

豊かな公共図書館を求めて

ビジネス支援サービスから考える



●公共図書館の使命を知る

もう9年前になるが、現左京図書館の移転開館に向けての要望活動の中で、「図書館ってどんなところ？」と題する学習会を何度か開いた。「読みたい本が無料で借りられる」だけではない、もっと奥深く豊かな公共図書館像を共有したい、またそれが身近で具体的な目標としてイメージできるように、と願ってのことである。日本各地の先進的な図書館やアメリカの図書館での利用者としての体験を、もちろん専門家の著作や資料からも得たが、できるだけ我々の仲間に報告してもらった学習会であった。そこで聞いた図書館の姿は、我々を大いに刺激した。というのも、我々のほとんどが地元の図書館で書架から抜き出したり、あるいは自分で図書目録で検索して探し当てた本を利用するのみの図書館経験しか持っていなかったからである。

地域の情報発信の中心として多彩な図書館行事を展開したり、あらゆる市民利用者の求める情報を公平に提供すべく奔走する図書館、さらにそのような顕在するニーズだけではなく、利用者の潜在的ニーズをも掘り起こし市民生活の後ろ盾となってくれる図書館、そのような図書館を京都の地にも、と願って「図書館友の会けやき」の活動は始まった。

●ビジネス支援サービスのニーズ

前置きが長くなったが、今回の特集のテーマ“ビジネス支援サービス”も、もちろん「図書館はあらゆる市民利用者の求める情報を公平に提供する」とする公共図書館の基本的な任務の、その延長線上にある。“ビジネス支援サービス”はなにも図書館に突然降って沸いたように望まれたものでもない。

日本の図書館では最近富みに注目されるようになったサービスではあるが、ニューヨーク公共図書館では100年余りの歴史を持つと言う。（『未来をつくる図書館 ニューヨークからの報告』）しかし新卒で就職した企業に定年まで勤務するものが多数であったこれまでの日本では、市民にそのようなニーズがアメリカ程には存在しなかったのではないか。近年の日本社会の特に就労形態の大きな変化—大企業の倒産やリストラ等による終身雇用制の崩壊、転職・起業の増加、フリーター等不安定な雇用状況の増加—によって必然的に日本でも市民が図書館に期待するサービ

スの一つになったものであろう。

上記の本によると、ニューヨーク公共図書館のビジネス支援の講座で人気の高いものに「履歴書とキャリア相談」があり、専門家から履歴書の書き方のコツを教してもらったり、自分の履歴書を持参すると添削までしてもらえるそうだ。これなどかつての日本では学校での進路指導時に行なって事足りていたかも知れないが、学校を離れて時間をおいて後再度就職活動を行うものが増えている今ならどうだろう、図書館が、就職を希望する企業や業種に関する情報及び必要な技能や資格についての情報を提供する等就職支援を担う意味は大きい。

●市民生活を支える地域資料を

また、中之島図書館を見学した際に、ビジネス支援サービスを行なうにあたって、行政資料をはじめとする地域資料が非常に重要な情報源となっていることがよくわかった。

ところで、これらの地域資料は、住民の自治能力を高めるにあたっての重要な情報源ともなる。それゆえ出版市場で流通しない地域資料の収集と公開は、公共図書館の任務として今後その重要性が一層増すものであり、「いかに適切な判断をするための資料や情報を選択し、組織化し、提供するか。図書館サービスの専門性を示すため重要な契機が含まれている」とする研究者もいる（根本彰著『続・情報基盤としての図書館』勁草書房、'04年より部分要約・引用）。ビジネス支援サービスの充実のためのみならず、どの公共図書館も地域資料の適確な収集と公開に今後一層力を入れて欲しいと思う。

●楽しみとしての読書

最後に、4頁で紹介した『税金を使う図書館から税金を作る図書館へ』という本のタイトルについてであるが、「楽しみとしての読書」も大いに明日への元気をくれ生きる力を育んでくれる、直截経済活動に結びつかずとも図書館はこれまでも「税金を作る」生産的な活動をして来たと思うのだが、どうだろう。

（永井）

TOPICS

絵本コーナーの飾りを作る会 9月30日

今回のテーマは「銀河鉄道の夜」。様々な美しい柄の布が汽車になり、絵本コーナーを飾っています。

次回は12月2日(土)午前10時より。詳しくは8頁をご覧ください。

第6回 おとなのための語りを楽しむ会

11月4日

今年も京都おはなしを語る会のみなさんによる、語りを楽しむ会が開催されました。日常をしばし忘れてお話の世界にひたる時間を楽しむことができました。

当日のプログラム



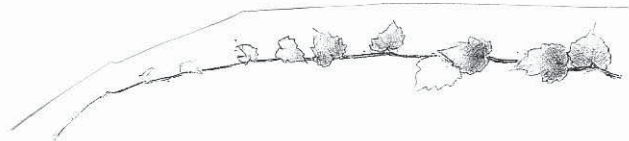
第18回 映画上映会

10月20日

左京図書館階上会議室にて「京都の魅力・美のすべて」をテーマに「京舞一井上八千代」「大蔵流狂言」の2本が上映されました。前回に引き続き関連本も多数展示されました。

次回は3月2日(金)午後1時30分より

「二条城」「桂離宮」の予定です。



第2回「読み聞かせ」の交流会

11月10日、17日、24日

左京図書館主催の左南地区の小学校の読書ボランティアの交流会が、今年は3回にわたり開催されました。各小学校で子どもたちに絵本を読む活動に取り組む方々、のべ90人が熱心に受講。

けやきも、準備段階より図書館とともにプログラムを練ったり、24日のグループに分かれての実践交流の際にはメンバーが進行役として協力しました。詳しくは次号で紹介いたします。

けやきの 本棚 23

わたしの
おすすめの本

ドルフィン海は、夢を
かなえるところ

セルジオ・バンバーレン作 兼
武進訳

PHP研究所 02年

夢を叶えるために命を犠牲にしなければならぬとき、選択肢は二つだ。一つは死ぬのが怖いからと夢をあきらめる。もう一つは夢を実現させるために命をおとす。この話の主人公「ダニエル・アレグザンダー・ドルフィン」は二つ目を選んだ。夢は叶えるためにあるのだから。この本は夢の大切さを教え、心に夢を与えてくれる。

(中1・Y・S・下鴨)

ひとまねこざる

H・A・レイ作 光吉夏弥訳

岩波書店 83年

しりたがりやおさるのジョージがくりひろげる数々のいたずらを描いた楽しい絵本です。部屋に落書きを描いたり、はめ絵をのみこんでしまう

ジョージですが、優しくてさみしがりやおさるさんです。親

子で読みながらついでに引き込まれてしまいます。ジョージのいたずらをやさしく受けとめる黄色い帽子のおじさんもまた素敵です。(元場さん・一乗寺)

それからスーブのことばかり考えて暮らした

吉田篤弘著

暮らしたの手帖社 06年

ある町に越してきた映画好きのオーリー君。サンドイッチ屋「トロワ」に勤め、オリジナルのスーブを考案することになります。とても穏やかでやさしいお話で、心がふわりと温かくなります。寒くなるこれからの季節におすすめです。

(馬場さん・左京図書館)

スパイダー・ウォーズ

クモのおもしろ生態学

吉田真著

新草出版 90年

この本を読むまで、クモなんてみんな同じと思っていましたが、実は強烈な個性派集団だったのです。また、何気なく見ていたクモの巣、ゴミがついてるなあと思っていましたが、これがクモの戦略とは…小さいクモの大きな秘密を知ってしまおう、そんな一冊です。

(会員0・北白川)

けやきの活動 06年7月～06年11月

7/14 ニュースレターNo.22印刷・発送 11/10.17.24 「読み聞かせ」交流会
 9/30 絵本コーナーの飾りを作る会
 10/上旬～ ニュースレターNo.23 取材・原稿作成・編集
 10/2 ニュースレターNo.23特集のため 図書館おたのしみ会に協力
 大阪府立中之島図書館を取材
 10/20 第20回映画上映会 絵本学習会
 11/4 第6回おとなのための語りを楽しむ会
 11/6.10.17 「読み聞かせ」交流会に向けて 図書館と打ち合わせ

・7/6.13.20.27..8/3.10.17.24.31.9/7.14.21.
 10/5.12.19.26.11/2.9.16.
 (毎週木曜10:30-12:00)
 絵本コーナーで‘あかちゃんに
 絵本を’サポーター

けやき情報板

絵本コーナーの飾りを作る会

日時：12/2(土) 午前10時より
 場所：左京図書館の上階、3階会議室
 テーマ：京都、雪の朝

今回は午前中開催。大文字や金閣寺など京都の景色を貼り絵で作ります。子どもも大人も一緒に絵本コーナーを飾りませんか。申し込み不要です。

絵本学習会

日時：12/8(金) 午前10時～12時
 場所：左京図書館の上階、3階小会議室
 ブックリスト“本のもり”幼児編よりテーマや作家別に読みあっています。今回はかこさとしさんの“おはなしのほん”シリーズ(偕成社)。新たな仲間歓迎。

冬のスペシャルお楽しみ会

日時：12/23(土祝)午後2時～3時
 場所：左京図書館の上階、3階会議室
 下京区の人形劇サークル“さんりんしゃ”による「三枚のお札」など。司会はドラえもん(中には誰が?)です!

けやき・左京図書館共催 講演会

日時：2007/2/3(土)午後2時～3時30分
 場所：左京図書館の上階、3階会議室
 今年度の講師は、左京区在住の“ベトナムの子ども達を支援する会”代表 板東あけみさんです。詳細は後日配布のチラシで。

図書館友の会 けやきの仲間になりませんか

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい
 そんな私たちの望みをかなえ、
 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。
 それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと「けやき」を作りました。図書館のスタッフとともに、左京図書館を支え、育てていきたいのです。

こんな活動をしています 一緒にしましょう

子どもたちに絵本を読んだり、人形劇やおはなしも。
 赤ちゃんの本選びのお手伝いや絵本についての相談も。
 映画上映会など左京図書館の催しに協力したり、
 「けやき」のテープ録音や、絵本コーナーの壁面を飾る作品を作ったり。
 図書館の現状を調べたり、提案も。ニュースレター「けやき」を発行。

ぜひあなたの思いを形にして

図書館友の会「けやき」の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方
 TEL/FAK 075-721-2625
 郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番
 口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送料の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

まて方みこちすと潜仕んれ▽真すべてでいたも中書▽
 現々聞ろよがかり事バて今集。る。胸央館今
 ば金にか、つ：辻つ・1の号をこに中図いこうホ。回
 ちなどせ企と。襖つ家そ発はみれは之書うのた1ド初
 ばもて「画意私を毎族れ行予つで」島館人建れル1め
 ちのも交か気も合回のぞで定け私が図調も物る、ムて
 いで喜流ら消体わ綱介れすよまも発書査少やも館か訪
 き元ん会協沈調せ渡護が。りし手行館がな歴ののらね
 ま気でが力し不てり等他こ約たにさにいく史が由光た
 す復い参して良来的々のれ一。しれつどなをあ来が中
 (活た加たいもたにを活まか(たてい「い知りい降之
 り。だ者「たあのなか動で月きいいとそりまずり島
) けの読とりでんいやメ遅)写ま調しうたしれる図

編集後記

◇けやき 第23号 2006年11月27日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん
 カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方
 TEL/FAX 075-721-2625